

アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は8年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュ NEWS をダウンロードによりご覧頂けます

新たにUクリーンの説明ページが大幅に増えました。

アークフラッシュ本部のホームページ表紙の下側のUクリーンの絵文字をクリックしますと販売、使用に必要なファイルを見る、ダウンロード、印刷することができます。



福島県は5日、県北保健所管内の遊技場の50代の男性従業員が6月に肺結核となり、客8人を含む計16人が集団感染したと発表した。うち6人が肺結核を発症し、3人が入院。男性と接触した人の健康診断をほぼ終え、感染拡大の恐れはないという。県医療看護課によると、感染者(男性を除く)の内訳は▽客8人▽他の従業員6人▽男性の家族2人。県北保健所が7～10月に遊技場の常連客ら138人に健康診断したところ、客4人を含む6人が肺結核を発症、10人から結核菌を確認した。入院した3人のうち、男性の家族の70代の女性が現在も入院中という

ペットナビ:最近、集団感染が起きた「イヌブルセラ症」は、どんな病気?

◆最近、集団感染が起きた「イヌブルセラ症」は、どんな病気?

◇多頭飼育で一気に拡大 オスは精巣炎、メスは流産頻発

イヌブルセラ症は、動物から人にうつる人獣共通感染症の一つ。ブルセラ・カニス菌(犬流産菌)の感染によって引き起こされる。「ブルセラ」という名称は、菌の発見者である英国人微生物学者デビッド・ブルースの名前と、微生物の分類に使われるラテン語の接尾辞「セラ」が合わさって付いた。国立感染症研究所(感染研)が03～06年、首都圏の動

物愛護センターに保護された479頭を対象に行った調査では、2・5%に感染歴があった。

● まれに人にも

感染すると犬のオスは精巣炎に、メスは胎盤炎などによる流産を繰り返すようになる。人間はまれに犬の胎児などに接触して感染することがあり、頭痛や発熱など風邪に似た症状が出る。発症しないことも多く、人から人への感染例はない。犬、人ともに抗生物質で治療できる。予防ワクチンは開発されていない。なお、人にうつるブルセラ症はイヌ以外にも、ヤギ・ヒツジ▽ブタ▽ウシーの3種類があり、それぞれ症状が異なる。

● 交尾や経口感染で

イヌブルセラ症は命にかかわるような重い病気ではないが、症状は分かりにくい。日本大学生物資源科学部教授で獣医学博士の津曲茂久さんは「流産が続き、検査を受けてみて初めて気付くケースがほとんど」と話す。日本では71年、米国から輸入された実験用の犬で初めて感染が確認された。犬同士では交尾で感染することが多いが、授乳や、流産した胎児や出産時の分泌物、尿をなめることによる経口感染も目立つ。多頭飼育の場合、1頭感染すると広まりやすいので注意が必要だ。感染研が03年以降、把握している集団感染は静岡や沖縄、愛知など計5件。いずれも繁殖施設やペットショップで起きた。07年、大阪府内の繁殖施設で発生した際は、府が100頭以上を殺処分する結果になった。先月、集団感染が判明したのも、東京都品川区のレンタル犬サービス会社。検査の結果、2店舗で飼われていた59頭のうち、18頭が陽性、38頭が疑陽性と判明した。また、店舗内のペットホテルを利用した飼い犬数頭からも疑陽性の反応が出た。

● 検査は継続的に

では、飼い犬に感染の疑いがある場合はどうすればいいのか。千葉県庁衛生指導課の佐藤至さんは「避妊や去勢手術をしていればリスクは低いが、心配なら動物病院で検査を受けてほしい」と呼びかける。検査では、菌の増減を数カ月おきに見る必要がある。陽性なら、抗生物質の投与や注射を施し、菌の増減を見ながらの治療を行う必要がある。他の犬との接触を避け、排せつはなるべく室内ですませるよう心掛ける。散歩するなら、排せつ物に30倍程度に水で薄めた塩素系消毒液をかけて殺菌し、感染拡大を防ぐようにする。感染研獣医科学部室長、今岡浩一さんは、「犬と飼い主の健康を守るため、業者や施設は自主的に検査をするのが当然だ。飼い主も犬を購入する際に、検査したかどうか聞くなど、注意してほしい」と話している

毎年、秋から冬にかけてノロウイルスの吐き下しで医療機関を受診する子どもが増えます。感染力が強く、老人ホームでの集団発生は毎年、マスコミでも取り上げられます。吐き気や嘔吐が激しくて少し便が軟らかくなる症状だけのことが多いのですが、逆に下痢が主な症状の場合もあります。

ノロウイルスによる胃腸炎はカキ貝などによる食中毒の一つで、食べ物を介して感染するものと言われてきました。しかし、風邪のように飛沫感染で伝染することも分かって来ました。予防法としては、カキ貝は必ず加熱して食べること、嘔吐物はマスクとゴム手袋を着用して処理し、その後は薄めた次亜塩素酸系消毒剤などで拭くことが大切です。ノロウイルスは感染後1、2日の潜伏期間を経て発症します。吐き気の程度は個人差がありますが、それまで元気だった子どもが突然、吐き出し、その後、半日は非常に吐きやすい状態が続きます。それ以上は吐かせないようにして脱水を予防することが大切です。元気そうでも、吐き気がおさまらない場合や、嘔吐物が黄色や黒色になった場合、早急に医療機関での処置が必要です。脱水症状になって入院しなければならないこともしばしばあります。下痢の回数が多い場合、体から出ていった水分を補充することも大切です。吐き下しの原因はノロウイルス以外のウイルスや細菌性のものもあり、それらは便を検査しなければ分かりません。また、ノロウイルスに対する検査は健康保険が適用されないのが現状です。

中国海南省衛生庁は3日、同省でコレラと診断された患者数がこれまでに51人に上ったことを明らかにした。省都海口市の海南大学でも、大学生8人がコレラに感染したという。大学での感染は、宿舎のトイレの下水道が詰まっていたのが原因とみられるという。

福岡市は28日、福岡大病院（福岡市城南区）の形成外科の男性医師（40歳代）が、結核に感染したまま患者を診察していたと発表した。市は同病院に患者や職員の結核検診を指導した。市によると、医師は昨年9月の定期健康診断で胸部X線写真に陰影が見つかり、精密検査の指示を受けたが、自覚症状がなかったため放置。今年9月の定期健診で陰影が拡大していたため、精密検査を受診した結果、同30日に感染性肺結核と診断され、10月1日に入院した。今年4月からは、せきやたんなどの自覚症状が出ていたという。医師が入院するまでの3か月を調べたところ、外来と入院患者計205人、職員294人、学生41人に接触していた。二次感染は報告されていないが、同病院は医師と同室で勤務していた職員や免疫力の低下していた患者ら計約90人の検診を実施する予定。市は病院に対し、職員の健康管理体制の見直しなどを指導した。同病院は「結核の危険性に対する医師の認識が不足していた。健康管理への職員の自覚の徹底を図るなど再発防止に努めたい」と話している。

医療現場の認識崩壊が続いています。自分の身は自分で守るという意識と多くの情報を得る機会を増やす事が大事ですね！！

